

毎月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵稅共五十錢）



北國偶感

以志波羅

昭和五年の代議員會に近畿支部から、『通信機關擴充に關する件』といふ問題で千曲時報の編輯方針を會員の連絡機關とする様議題に出した様に記憶して居る。そして此の問題を出しておいてサツパリ通信をしない自分を顧みて何んだか洵に申譯ない様なきまり悪い様な氣持もし又各支部の通信が此頃非常に紙面を賑はしてあり又會員の動靜やら角張らない御意見が出て居るのを見て何んだかジツ／＼するほど京都東洋花壇の支部會當時が懐しくなつて来た。

東洋花壇を廻る人々今は本當に四散してしまつた。神戸の加美氏、石坂氏、東京の八木氏、小見氏、野崎氏、碓氷氏、岐阜の湯澤氏、横濱の橋詰氏、台湾の小泉氏等、今は孤島を淋しく守つて居るであらう吉川氏、西山氏はどうして居るだらう。期限迄に代議員會に提出問題を送れといふ通信が本部から舞ひ込んで來ると直ぐあの坂道を一汗かいて京都を一望に收めて居る東洋花壇の一室に陣取つて安い所で牛鍋をつまき乍ら、卓見？迷論を戦したものだ。

どうもベンの奴めが仲々言ふ事を聞かない。其責任を感じ乍ら果さずしまひて北國落ちをしてしまつた。さて今度は北國へ來たから新しい處で氣分の變つた處をと思つて居ながら此れも出來ずしまひになりさうだ。時報を手にする時何れも其れを感じ乍らも其儘になつてしまふ。殆んど毎號書かれる高島氏や碓氷氏など一寸面白い様な氣がする。然し之れは『ベンの動きの甚だ滞い』といふ大きな原因もある事だが元來が種々の環境がさうしてしまつたんかも知れない。だが時報を何處迄も會員の時報としたいと云ふ氣持は昔も今も變りはない。其處で北國へ來てもう一ヶ年餘になるから何か通信して日頃から氣になつて居る借金を返さうかといふ氣持になつた譯だがさて書いて送らうとすると特別に書き立て、やる様な事件が見當らない。新米の俺が書かなかつとも先輩がうんと居るのにと云ふ氣持も手傳つて一寸筆が滯つてしまふ。近畿に居る頃は少くとも年に三回は會合の機會があつたが此方は同窓が多勢毎日顔を合せて居る爲もあらうが特に集るといふ事が少い様だし支部の事はまだ一年生だから書けさうもない。又間違つた事を書いて御叱り受けても追ひ付かん話だから追つて支部教育を充分受けた後報道するとして短い一年の間に映じた北國を直感と想像を通じて書いて見やうと思ふ。無論見る眼も鈍いし觀測も淺いから

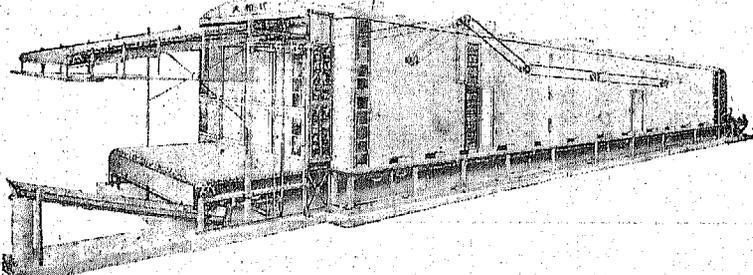
編輯 兼 山香 香野 長上 野中
發行 兼 山香 香野 長上 野中
印刷 兼 山香 香野 長上 野中

山本三太郎著
化學純絹絲の工業的完成
伊太利蠶絲研究會編
伊太利蠶絲絹業の現況
伊太利蠶絲絹業の衰退原因と其の改善
菅原勇治著
蠶絲業法規要論

市田上縣野長
會究研學科絲蠶 所行發
〔振替長野6413番〕

當つて居ないかも知れない。先づ風土、人情とあり來つた處から出かけるとする。去年は大分良い天氣が続いたと土地の人々が云ふて居たが測候所の話を聞くと快晴は一年間通じて僅に二十一日きりなかつたさうだ。其他は雨と雪と押付けられる様な曇天ばかりだ。隣の人が『さういふ方へ來られては辨當を忘れても雨具を忘れてはいけませんよ』と云ふてくれた。後でこれはなるほど金言だと感心した。……○……金澤はとてと醫者の多い處だ。俺の通勤して居る街では十二、三軒毎に一軒宛の醫者が居る。それで皆金持だ。俺の借家は可成り場末の處だが俺の家を中心にして三町を半径として圓を畫くと五、六人の醫者がゴロゴロと轉げ込んでくる。恐ろしく醫者が多い所だ。それで皆堂々とした構へだから尙更驚る。昨年來る早々家内全體一廻り重いのが軽いのやらの病氣をした、醫者の言ふ事が面白くない。『他縣から來られると二年目には幾分長く四年経つと大体土地に馴れますよ』此れでは助からないと思つた。大津を去る前神戸の加美氏が『君北陸は氣候が悪いから注意しろよ』と云ふたがこんな醫者が繁昌して居やうとは思はなかつた。そして今年の夏は此の醫者

現代乾繭機界ノ王座 大和式自動輸送乾繭機



一九三四年代表型

製作發賣元 株式會社 大和三光商會
東京京橋區京橋三丁目二番地 電話京橋(56)五三二〇番

營業課目
特許大和式自動輸送乾燥機
特許大和三光式乾燥裝置
特許大和三光式乾燥機
特許大和三光式乾燥機
特許大和三光式乾燥機
特許大和三光式乾燥機
特許大和三光式乾燥機

に大きな無駄奉公をしてしまつた。雪の國だから雪害があつたからと驚くことではないが此の冬は酷かつた。御蔭で雪害対策とやらの仕事で一訓練された。水が出た。家が流れた。桑園が流れた。それ水害対策。火事があつた。それ善後策。風害があつた等々々々。何んと厄介な處だ。加賀の殿様も昔から水では手を焼いて居たさうだ。手取川（水害を起した川）がなかつたら加賀の財政はもつさうであつたかも知れない。……○……さうかといふて春が來れば花が咲く。

小島は啼く。シヤンが遊び出す。そしてのんびりとお酌をしてくれる。夏には海が呼ぶ。温泉は招く。しよもおればかきも居る。サーピスに抜かりはない様子だ。……○……人情！これは細やかな所があるさうだ。關東男に北陸女は理想的な夫婦が出来上るといふ事だ。どういふ意味か良く知らないが。地方人相手の役所の仕事はまだまだい事夥しい。『笛吹けども踊らざる』類の方も知らない。だが政黨盛んの頃は役人なんて大根が菜葉位にきり思つて居なかつたさうだ。此れは先輩の語だが桑原く。……（九、一〇、三）

秋の京城を訪れて

田中 亮

日本動物學會大會が毎年一回各地の帝國大學所在地で順々に、その大學の動物學關係の教室が中心になつて開催される事は諸氏の御承知の通りである。今年も第十回大會が朝鮮京城帝大の醫學部で九月三十日十月一日の二日にわたつて行はれた。柳からばた餅とは正にこの事だろ

う。私がこの大會に出席できる運命に遭遇し様とは。と云ふのは私は台北帝大の動物學(哺乳動物學比較形態學)教室の最も末席を汚してゐるに過ぎないものであるからである。私のテーマは凡そ蠶とは縁の遠い或る野鼠の形態學に關するものであるが、之を大切に引提げて未知の國朝鮮へ向けて出發したのは九月二十六日であつた。京城には上田の同級生沈君が頑張つてゐる筈だから幾年振りかの相合ふ機會を樂しみにして居た位で同窓生が京城に幾人どんな人が居るか殆んど注意しないで出掛けた。實際其れを考へる餘裕がない程講演の準備其他で急がしかつたのである。

我々は大陸の一角から行進を起した大型の京城行の急行列車の進行に連れて車窓に寫つる南鮮の風景の美しさにあつと感激した。ポプラの並木、美しい枝振りの松の緑、花崗岩の白い山肌、蕪草の低いオンドルの百姓家、其の間に點在する白衣の農夫總べて其儘が纏まつた南鮮の軸物だ。併し枯音を充分味へなかつたのは残念であつた。何故斯く人の噂以上に朝鮮は美しいか。考へて見ると私は台湾のあくだい芭蕉や棕櫚、單調ながじゆまら相思樹の風景に厭き厭きしてゐたから餘計に美しく見えたのかも知れない。兩煙る京城驛から出迎への準備委員の方々に伴はれて、絡む葛き(五百年と云はれる南大門の横を通つて南山の朝鮮神宮に自動車飛ばせたのは廿九日の薄暮

の頃であつた。山から見降した雨の京城の宵は『戀の京城おぼる月……』の感傷を誘ふものだつたが、ぞつと身にしみる冷氣に初めて此處は寒くて名高い京城だと氣付いた。『君風を引くなよ。氣を付け給へ』と同行の台北の平坂教授に注意された。先生も餘程寒いと見へた。

翌日から大會は醫學部の古臭い教室で豫定通り開催された。講演の材料とされた動物の中で家蠶が最も多かつた事は何を物語るか。蠶程材料が到る所に思ふ存分得られるものは他にないだらう。従つて蠶に關する論文は兎角討論の對照になり易く之が斯業の研究者諸氏の辛い所である。今度の會でも京都高蠶のS教授が盛に質問を受けた。其れに比して私の取扱つた材料は台湾の大學にあるのみ世界の何處にも恐らくないだらうが此れは幸であり又同時に不幸であつた。此の大會では京畿道原蠶種製造所の梅谷技師が準備委員の一人なので其の下で働いて居られる我々の同窓生の方々が本會の準備の手傳をされた事が因縁になつて私は會場で尾見氏を初めとし沈、朴、柳原、大石の諸君と相會し昔からの友達の様に挨拶しあつた。私の講演もどうやら大過なく済み、會後のエックスカージョンの金剛山行きも豫定通り終つて自由の身になつた其の晩は取締所の獨身宿舎で大石君の蒲團で寝た。君とは一向未知の間であつたが上田の縁で十年の友の様に氣兼ねなかつた。翌晩は京城在住の同窓生の方々が私のレセプションの會を開いて下された。私の光榮身の餘ると云はざるを得ない。動物學會の明月館の懇親會の會場兼進行掛りの一切を梅谷技師から任かされた程の沈君の世話に依るもなしであるからピンからキリ迄行届いた接待振りであつた。

小笠原、尾見兩先輩の酔振りは近來稀れの物であると私は注意された。キーサーの踊んだ一領りの長唄はいともあてやかであつた。キーサーの藝術、キーサーの東京辯又其の立派姿は京城の誇りだそうである。私は此處に京城の同窓生の心からの希望を忠實に記そう。同窓會がより以上に朝鮮に其の勢力發展の努力を惜んでほならない。斯うした學會に母校から若手の學者を出席させて上田の學校にもかゝる研究者ありと動物學者に廣く吹込まなくてはならない。京都高蠶からは一人の立派の教授が参加してゐる。此の意味とは多少離れるが同窓の一人としての私の参加が歡んで戴けた。

千枚漫語

千葉 高 島 生

(昭和九年十月廿六日記)

前月號に寫眞アルバム計畫案を樹て第二回卒業生諸君に對し賛否の回答を求めた處今日迄に回答を寄せられた者は飯島君、坂田君、兒玉君、須田君、唐澤君、朝長君のオンリー六人だけ(何れも賛成)この外倉澤君には別に賛成を得て置いたから結局自分迄合せて僅に八名同期生の十二三%の意志しか譯らない。併し回答の少いのは此の計畫に無關心なるが故に非ずして折角の提案を讀まない結果であると察するからいづれ別途の手段を講じて計畫の實現を期する事に於て積りである。

一体第二回生文に關する案件に廣告料も納めず時報を利用する事はチトどうかとも考へたが此の計畫が他のクラスの者にとつても多少の参考にはならうし又時報の利用價值を試めたいと云ふ下心もあつたので漫語に事寄せて計畫案を誌上に載せた次第である。然るに結果が此の様であつて見れば、讀まない者相手に書いて居る様な馬鹿々々しきを感じて時報に投稿する事に氣がさして来る。(コンナ嫌味を言つた處で、聴かせたい奴が讀まないのだから益々以て始末にをへない)

斯うした多數の會員を相手に平業會務に骨折つて居られる幹部諸公の隠忍努力に對しては今更乍ら敬意を表する。其れから年賀狀代りに誌上廣告で間に合せる事の非禮に就ては再三論じたから茲に繰返さないが廣告効果の少い事文は漫語の實例に徴して承知してかゝるやう御忠告申上げて置く。

土岡君(蠶七)から『……千曲時報每號(御健筆……往年誤つて蠶業界に身を投ぜられ候貴臺が、最初からジャーナリストとして生立たれ候はゞ今頃は本邦言論界の雄として活躍せられ居る事ならんに限りなく惜しき心地致候、併し千曲時報が貴臺を有することは此上なき幸福……千枚漫語は每號面白く拜見罷在候……』との絶讃を寄せられた。誠にハヤ撥ぐつたいやうな氣持、自惚れはしないが斯うした愛讀者が一人でもあつて見れば書きがひがある。機嫌を直して投稿を續けませうかいナ。

尙土岡君から、『備後表は當地方人の生命線とも云ふべき特産品に有之、本校(廣島縣立沼南實業學校)農場生産品を格安に提供仕るべく候に付、貴臺御座敷用上等表は將來是非御用命願ひ度十分責任ある品を御送附仕るべく候、相場は
綿絲 五八表 上等品 五十五錢
引通表 六十五錢
大麻 五八表 一圓廿五錢
引通表 一圓廿五錢
中等品は何れも一枚五錢十錢下げ、運賃一丸(綿引表六十枚、大麻表四十枚)に付約二圓見當に御座候』と言つて來た。

編輯して居る。それは時報創刊號以來の總目錄を、調製して頂き度い事である。リーフ時代のものを一括製本して保存しようとする整理好きは私一人に止まらないであらう。(九、一一、一二)

千曲時報の創刊されたのは昭和五年四月で爾來號を重ねること茲に五十有六、早いものだ。そこで兼ねて宿題の体裁變更の事を解決すべく、此際考慮して頂き度い。コンナ事は幹部限りで解決しても差支ないと思ふが念の爲め來るべき代議員會に東京支會から提出するやう支會長へ申出て置いた(據り潰されたかも知れぬが)。即ち『千曲時報を菊列の冊子に改むる件—現行の新開型(リーフ型)を菊列の雜誌型(パンフ型)に十年一月號より改正する事』と云ふのである。今その理由を簡単に記して、代議員諸君の賛成を俟つ。

(一) 体裁上から
リーフ型よりパンフ型の方が体裁がよい。
(二) 保存上から
リーフ型は保存に不便で舊記事を探す等の場合にも手数がかり又携帶中折目の摩損する場が多い。
(三) 編輯上から
リーフ型は原稿の多寡に依り増減する事困難なるもパンフ型なれば増減自由である。

第七回代議員會開會通知

来る十一月二十三日午前九時より母校講堂に於て第八回代議員會を開會致します。

年賀廣告募集

例年の通り本紙一月號に登載する年賀廣告を募集致します。元費節約券々本紙援助の意味で何卒多數御申込あらん事を切望致します。

一、締切期日 十二月十五日迄
一月號は特に元旦に配達される様に爲め締切期日を右の如く早めます。年賀廣告以外の記事も同日迄に送附して下さい。

蠶絲學雜誌七卷二號內容

ヘテロプロイド蠶の細胞學的研究... 蠶繭の螢光色に關する研究... 蠶の乾燥氣象に對する適應能力に關する二、三の考察...

上田便り

所得調査員選舉 上田市の所得調査委員選舉は十月十日行はれ取新一、瀧澤一郎、島田甲子郎、細川清明、丸山源兵衛の六氏が當選した。

習 今秋の陸軍特別大演習に際し十一月十七日高崎練兵場で行はれる御親閲に關し參列の本縣各學校生徒、青年訓練所生徒、男女青年團員等は南北信に分れ十月十五日、上田飛行場、十月十六日松本練兵場の二個所で豫行演習を行つた。

上田飛行場集合は南北佐久、小縣、埴科、更級、上下水内、上下高井、長野、上田の二市九郡三千餘名で岡田知事以下列席し非常な賑ひで臨時列車運轉された。

秋祭 十月九、十日は新地琴平神社の祭典、同十四、十五日は鍛冶町本陽寺の三十番神祭(通稱さくら祭)同十八日、十九日は常入縣社科野大宮神社の祭典で何れも快晴に恵まれ各種の催物があり人出多く賑つた。

北信風景をトキキ撮影 鐵道省旅客課では北信地方の風景をトキキに收め『北信の旅』と題し觀光地紹介を行ふ事となり撮影隊が十月十日來縣淺間山を振出しに撮影を開始したが一行は上田、菅平並に別所、戸倉、上山田、平糴各温泉及び長野市附近を約十日間に渡り撮影の豫定である。

上小青年野球大會 上田体育協會主催の上小青年野球大會は上田(三組)、丸子、長本原、神科、中野、殿城、泉田、依田、滋野、和の十四チームが参加し市營球場に於て十月十六日、十四日、廿一日の三日に亘り舉行決勝戦は大星(上田)對泉田にて十八對六にて大星が優勝した。

り撮影の豫定である。

上小青年野球大會 上田体育協會主催の上小青年野球大會は上田(三組)、丸子、長本原、神科、中野、殿城、泉田、依田、滋野、和の十四チームが参加し市營球場に於て十月十六日、十四日、廿一日の三日に亘り舉行決勝戦は大星(上田)對泉田にて十八對六にて大星が優勝した。

下機染業組合と協力して染織展覽會及上田市生産品即賣會を開催した。東京アンゴラ會社の出品中に母校紡織科が依頼されて紡出せるアンゴラ糸があつた。

スキー場廻遊割引 長野運輸事務所のスキー場廻遊割引は左の四種と決定。一、諏訪から霧ヶ峰を経て霧ヶ峰へ、温泉を経て信濃バス沿線より鹿澤、田中から菅平を経て上田へ、一、上田から菅平を経て須坂、長野へ、長野運輸で調べたハイキングコース

行樂の秋が來て信州はハイカーの群が殺到しつゝあるが長野運輸事務所ではハイキングコース十三箇所を選定發表した。其の内上山縣經由のものには左の通りである。(括弧内は最寄驛)

虚弱兒童の療養所完成 東京傳染病研究所河本矢追兩博士は今回建坪百四十坪の同所事務室を菅平高原に移轉、虚弱者を收容する健康療養所を開設する事に決定目下工事中であるが来る十一月十日竣工式を舉行する事に決定した。療養所は前記兩博士指導の下に冬期間を除き開設するもので收容者は約二百名入所者に対ししては傳研專屬醫師、看護婦が専従し高原特有の紫外線赤外線が虚弱者に及ぼす影響を學術的に調査研究する等之が爲め兩博士は東京市後援の下に既に健康獎勵會を組織し東京市内の虚弱兒童は出来る限り菅平高原に收容し健康化運動を計る事となつた。猶同所は冬期間一般スキーヤーの爲めに開放宿泊の便宜を與へる豫定で今シーズンから開業する。内部の設備は講堂、圖書室、浴室を完備し頗る理想的のものである。

市内各學校の校庭運動會 小縣蠶業學校が十月十四日、高等女學校が十九日、小學校及實科高等女學校が二十六日に陸上運動會を行つた。中學校は運動會を廢止しその代りに長距離競走を行ひ剩餘金を關西地方風水害義捐金として寄附した。

す影響を學術的に調査研究する等之が爲め兩博士は東京市後援の下に既に健康獎勵會を組織し東京市内の虚弱兒童は出来る限り菅平高原に收容し健康化運動を計る事となつた。猶同所は冬期間一般スキーヤーの爲めに開放宿泊の便宜を與へる豫定で今シーズンから開業する。内部の設備は講堂、圖書室、浴室を完備し頗る理想的のものである。

市内各學校の校庭運動會 小縣蠶業學校が十月十四日、高等女學校が十九日、小學校及實科高等女學校が二十六日に陸上運動會を行つた。中學校は運動會を廢止しその代りに長距離競走を行ひ剩餘金を關西地方風水害義捐金として寄附した。

上田驛の時間改正 省線スピードアップに伴ひ愈々十二月一日より全國一齊に列車時間改正となるが上田驛にて改正となるものは、上り午前一時三十分、米原發上野行、上り午前二時八分、急行金澤發上野行、上り午後二時六分、長野發上田行(新設)、下り午後一時三十分、急行上野發金澤行、下り午後四時四分、上田發長野行(新設)である。午後四時四分の下り列車新設は學生や會社員に大助かりである。

夏秋兩取引百廿万圓減 上田商工會議所調査に依る上小丸蠶絲會社の夏秋兩取引成績は出廻高五七〇、四二〇圓、金額一四二四、四一五圓九二錢、實當二圓五十二錢、前年同期に比し出廻高に於て五二、七七三圓、金額に於て二二一〇、六六一圓二〇錢、實當二圓五九錢の大減少である。

益々擴大する菅平スキー場 須坂口では本年から菅平迄車道が開道した上沿道鬼籍路、峠の二個所に宿泊所、井上村に立派な山岳ホテルが新築された。又松代スキー俱樂部では地蔵峠スキー場から菅平への縦走コース十二キロを開設し尙地蔵峠スキー場へはヒュッテを新設した。次に上田スキークラブ及温電では先年遭難事件のあつた上信國境スキーコースの途中にヒュッテ二箇所を建設した。かくて菅平は益々擴大しつつある。

上田市の所得調査委員選舉は十月十日行はれ取新一、瀧澤一郎、島田甲子郎、細川清明、丸山源兵衛の六氏が當選した。今秋の陸軍特別大演習に際し參列の本縣各學校生徒、青年訓練所生徒、男女青年團員等は南北信に分れ十月十五日、上田飛行場、十月十六日松本練兵場の二個所で豫行演習を行つた。上田飛行場集合は南北佐久、小縣、埴科、更級、上下水内、上下高井、長野、上田の二市九郡三千餘名で岡田知事以下列席し非常な賑ひで臨時列車運轉された。菅平高原に初雪、菅平高原は十月十八日朝四阿山嶺岳中腹迄眞白く三寸近くの積雪を見て、菅平ホテルの人々は初スキーを行つた。昨年の初雪は十月廿七日で本年は九日早い。いよゝ之からスキーシーズンに入る譯で地元關係者は種々準備を急いでゐる。秋祭 十月九、十日は新地琴平神社の祭典、同十四、十五日は鍛冶町本陽寺の三十番神祭(通稱さくら祭)同十八日、十九日は常入縣社科野大宮神社の祭典で何れも快晴に恵まれ各種の催物があり人出多く賑つた。北信風景をトキキ撮影 鐵道省旅客課では北信地方の風景をトキキに收め『北信の旅』と題し觀光地紹介を行ふ事となり撮影隊が十月十日來縣淺間山を振出しに撮影を開始したが一行は上田、菅平並に別所、戸倉、上山田、平糴各温泉及び長野市附近を約十日間に渡り撮影の豫定である。上小青年野球大會 上田体育協會主催の上小青年野球大會は上田(三組)、丸子、長本原、神科、中野、殿城、泉田、依田、滋野、和の十四チームが参加し市營球場に於て十月十六日、十四日、廿一日の三日に亘り舉行決勝戦は大星(上田)對泉田にて十八對六にて大星が優勝した。下機染業組合と協力して染織展覽會及上田市生産品即賣會を開催した。東京アンゴラ會社の出品中に母校紡織科が依頼されて紡出せるアンゴラ糸があつた。スキー場廻遊割引 長野運輸事務所のスキー場廻遊割引は左の四種と決定。一、諏訪から霧ヶ峰を経て霧ヶ峰へ、温泉を経て信濃バス沿線より鹿澤、田中から菅平を経て上田へ、一、上田から菅平を経て須坂、長野へ、長野運輸で調べたハイキングコース 行樂の秋が來て信州はハイカーの群が殺到しつゝあるが長野運輸事務所ではハイキングコース十三箇所を選定發表した。其の内上山縣經由のものには左の通りである。(括弧内は最寄驛) 虚弱兒童の療養所完成 東京傳染病研究所河本矢追兩博士は今回建坪百四十坪の同所事務室を菅平高原に移轉、虚弱者を收容する健康療養所を開設する事に決定目下工事中であるが来る十一月十日竣工式を舉行する事に決定した。療養所は前記兩博士指導の下に冬期間を除き開設するもので收容者は約二百名入所者に対ししては傳研專屬醫師、看護婦が専従し高原特有の紫外線赤外線が虚弱者に及ぼす影響を學術的に調査研究する等之が爲め兩博士は東京市後援の下に既に健康獎勵會を組織し東京市内の虚弱兒童は出来る限り菅平高原に收容し健康化運動を計る事となつた。猶同所は冬期間一般スキーヤーの爲めに開放宿泊の便宜を與へる豫定で今シーズンから開業する。内部の設備は講堂、圖書室、浴室を完備し頗る理想的のものである。市内各學校の校庭運動會 小縣蠶業學校が十月十四日、高等女學校が十九日、小學校及實科高等女學校が二十六日に陸上運動會を行つた。中學校は運動會を廢止しその代りに長距離競走を行ひ剩餘金を關西地方風水害義捐金として寄附した。上田驛の時間改正 省線スピードアップに伴ひ愈々十二月一日より全國一齊に列車時間改正となるが上田驛にて改正となるものは、上り午前一時三十分、米原發上野行、上り午前二時八分、急行金澤發上野行、上り午後二時六分、長野發上田行(新設)、下り午後一時三十分、急行上野發金澤行、下り午後四時四分、上田發長野行(新設)である。午後四時四分の下り列車新設は學生や會社員に大助かりである。夏秋兩取引百廿万圓減 上田商工會議所調査に依る上小丸蠶絲會社の夏秋兩取引成績は出廻高五七〇、四二〇圓、金額一四二四、四一五圓九二錢、實當二圓五十二錢、前年同期に比し出廻高に於て五二、七七三圓、金額に於て二二一〇、六六一圓二〇錢、實當二圓五九錢の大減少である。益々擴大する菅平スキー場 須坂口では本年から菅平迄車道が開道した上沿道鬼籍路、峠の二個所に宿泊所、井上村に立派な山岳ホテルが新築された。又松代スキー俱樂部では地蔵峠スキー場から菅平への縦走コース十二キロを開設し尙地蔵峠スキー場へはヒュッテを新設した。次に上田スキークラブ及温電では先年遭難事件のあつた上信國境スキーコースの途中にヒュッテ二箇所を建設した。かくて菅平は益々擴大しつつある。

出でよ!

ハイキングに

上信國境の高原、 森林、温泉山々

求めらるべくして、與へられてゐない文化域内に於ける眞の幸福は、健全なる精神と健全なる肉體である。精神文化、物質文化の高度に發達したギリシヤ、ローマ帝國が脆くも滅亡した原因は國民に健全なる精神と肉體とが漸次脱落し上下をあげて安易快楽の夢に耽けるに至つた爲めである。文化が如何に發達しても只無味乾燥な生活、生命のない傳統、無意味な束縛に捉はれて澁滞たる意氣と精進とを忘れた現代文化國民は、滅した轍を踏むに到りはしないだらうか?

其處に勃然として湧き起つた啓蒙運動は『自然に親しめ』の叫びである。自然に親しめ! 醒睡とした煩鎖な日常生活から解放され飄然として何處といふ目的もなく山野に、森林に、溪谷に、温泉に; ひたすらに自然の澁滞たる生命に觸れやうとしてさまよい歩く放浪の旅、これは獨逸のステューグリツツに於て、カール・フイッセルといふ体操教師が創始し漸次全國的に擴大されて行つた「渡り鳥」の運動である。

(註)獨逸では、かういふ運動を渡り鳥(ワンダーフオーゲル)と言ひ英國ではハイキングと呼ぶ。このワンダーフオーゲルの運動は一九二六年獨逸に於て完成し我國へも渡つて都會と言はず田舎と言はず平生無味乾燥な傳統の束縛に苦惱する血氣の若者達は何れも輕快な服装を整えて、我も〜と一、二日を山水放浪の旅に出るやうになつた。旅の持つ魅力と刺激は、安易な夢を食ふ現代文化人には、最も強い澁滞たる生氣を、精神と肉體とに與へる清涼劑である。

峠越えハイキングの小冊子は左記へ申越次第上げます。 上田市天神町 上田温泉電軌會社營業課

母校ニュース

實彈射撃 母校では十月九日十一日十二日の三日間に亘り新裝なれる太郎山下上田市射撃場に於て實彈射撃を舉行職員も多數參加した。成績左の通り。

Table with columns for individual scores and names. Includes categories like '個人成績' and '職員の個人成績'.

蠶絲業關係三市對抗庭球リーグ戦 六回大會を十月十四日松本市縣營コートに開く。此の日空高く晴れて無風絶好の庭球日和。午前九時須田蠶取支所長の開會の辭、長野軍より優勝カプツの返還を行ひ午前十時より長野對松本、松本對上田、上田對長野の順に白熱戦を演じ午後二時終了左記戦績を以つて上田軍の勝利に歸し優勝カプツの授與、久保田蠶取支場長の挨拶があつた。午後四時より淺間温泉富貴の湯にて大懇親會を開いた。終りに松本市關係各位の御好意を謝す。

Table showing match results for the volleyball tournament. Columns include team names (e.g., 松本, 上田, 長野) and scores.

市川 四二 (若林本校) 川島 二 (若林本校) 壁谷 二 (高澤本校) 縫井 三 (高澤本校) 依野 三 (高澤本校) 水谷 〇 (熊谷本校) 熊谷 〇 (熊谷本校) 横田 三 (倉澤本校) 小澤 四 (倉澤本校) 長野 三 (上田本校)

山本 四三 (瀧澤本校) 大澤 〇 (若林本校) 石内 二 (高澤本校) 金崎 三 (熊谷本校) 宮崎 一 (倉澤本校) 尾崎 二 (倉澤本校) 北村 四二 (倉澤本校)

菊花生展覧會 母校内専菊會主催の菊花展覧會は十一月一日より三日間校内會議室に開催された。出品者は井上、遠藤、金子、林、小林(清)、竹下、大原、細谷室橋、近藤、高野、宮下、小林(也)の諸氏である。

林太郎氏外二氏榮轉 長らく蠶絲化學教室に勤務せられ最近是人絹實驗室に研究せられつゝあつた講師林太郎氏及同氏と共に奮闘せられた副手大塚富雄氏、山田隼男氏は今回昭和肥料株式會社人絹部に榮轉される事となり十月十五日〇時三十七分上田發にて上京せられた。三氏の將來の多幸ならん事を祈る。

御親閲豫行演習 十月十五日の上田飛行場に於て舉行された御親閲豫行演習に對しては本校よりは三學年生六十一名參加し、授業に差支へなき職員も多數參加した。

紡織科職員業手の靈泉寺温泉行 紡織科職員業手一同は秋季旅行として十月廿八日秋色深き靈泉寺温泉に至り久し振りに樂しき一日を過した。

西景日出町に移轉 常入小島鐵工所筋向ふにあつた西寮は都合に依り十月廿八日より日出町双葉館跡に移轉し名稱も學校長の命名に依り高嶽寮と改められたが學校へは一町未満の近距離にある。

御親閲豫行者に豫防注射 本校の御親閲豫行者及觀兵式に參加するものは職員三十八名、三學年生六十一名であるが十一月一日及五日の兩日に亘りチブス豫防注射及健康診断を行つた。

教養養成科新校舎落成 六月下旬着工した教養養成科新校舎は其後鋭意工事を進めてゐたが、此の程漸く落成し十一月一日より使用を開始した。建物の内容及規模は七月號の本欄に書いて置いた。(寫眞は引越記念に新校舎玄関前にて一同撮影せるもの)



(上田市馬場町 三井寫眞館撮影) 全校塔の原へ遠足 十一月三日午前七時四十分より御眞影奉安殿前に於て明治節の拜賀式を行ひ式後体育デーの主旨に

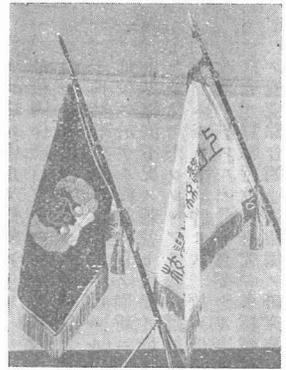
に基づき全校温電中鹽田驛下車徒歩一里西鹽田村塔の原へ遠足を行つた。 談話會 毎金曜午後四時より第十一教室で開催せられる談話會の演題及講師は左の如くである。 十月十二日 一、建築と音響に就て 志田 敬夫 十月二十六日 一、美ヶ原の昆蟲相に就て 池内 眞吾 一、簡單なる二三の化學實驗に就て 須田 圭二

十一月二日 一、蠶兒のX光線照射實驗 宮坂 收 近畿地方風水害義捐金 朝日新聞で募集中の近畿地方風水害義捐金に對し一般生徒の應募總額二十圓五錢に達し十月十六日取纏めて委託送附した。職員の方は總額六十七圓三十錢にて十月廿四日送附の手續きを執つた。 なほ十月廿一日の陸上運動會に於て經費を節約し六十二圓五十九錢を捻出し、之も義捐金として十一月七日委託送附した。

小松忠一郎氏講師となる 林太郎氏の後任として小松忠一郎氏が紡織科より蠶絲化學教室に轉せられ十一月八日附を以て講師を囑託せられ化學、絹絲化學實驗及精練漂白論を擔當せらる事となつた。

校旗調製さる 十一月十七日の御親閲に間に合はすべく高島屋に注文であつた校旗二旗が出来上つた。正旗は二百五十圓で長さ二尺七寸幅一尺八寸の紫色の綾錦織の地の中央に校章を金銀糸にて刺繍し本金フランスモールの縁をとり長さ二、八寸の緑色純絹絲飾 房付の堂々たるものである。 副旗は五十五圓で寸法は正旗と同様の白鹽瀬羽二重の地に黒で横に上田蠶絲專門學校の八字を染出し縁は黄色絹絲製モールのし長さ二、八寸の黄色絹グルミ飾房付である。 竿頭は何れも鎗先になつてゐる。正旗

は本校を代表する場合に使用し副旗は他
に本校を知らしむる場合には使用するも
のである。



(寫真右は副旗左は正旗を示す)

甘茶美術展の催し

吉例により母校では来るべき十一月
二十三日から一週間第十三回甘茶美
術展覧會(繪畫、寫眞、書、彫刻工藝)
を開催する事に決定し只今作品募集
中である。従來校内職員が主となり
其の他學生諸君の作品が主なるもの
であり觀賞者も比較的局限されてゐ
たが、最近、量的に質的に(?)に向
上し一般大衆の聲もあり之を公開す
る事にしてからは、此の甘茶會は此
の地方此の種の唯一の大きな存在と
なり一般の期待も意外に大きいのに
驚いてゐる位にまでなつた。會の時
期に就てはもと早くにしたらとい
ふ人もあるが、作品募集の關係もあ
り、又此の頃開かれる千曲會代議員
會諸兄の遠路の御足勞を些にても憐
はんが爲でもあり大體新嘗祭の二十
三日に決めてゐる。

就ては從來も一部の方々には出品を
願つてゐるがより多く千曲會員諸兄
の中美術愛好者に於かれても遠慮な
く其の傑作(勿論アマチュアとして
の作品で充分)を御出品下さらん
事を切望いたす次第である。

作品締切 十一月二十日
送先宛名 上田蠶專内甘茶會
(山口記)

校友會記事

競技部東京高蠶遠征雨中止 陸上競
技部は十月七日必勝を期して東京高等蠶
絲學校へ遠征したが降雨の爲め中止とな
り涙を吞んで歸田した。

縣下卓球大會 卓球部主催全信州卓球
大會は十月十七日母校生徒控室に於て開
催された準決勝以後の戦績は次の通りで
ある。

蠶三水野君は決勝で不幸破れた。

準決勝
藤本 0-3 宮坂
西澤 1-3 水野
決勝
宮澤 3-1 水野

第十九回陸上運動會 上田市の各物と
なつてゐる母校第十九回陸上運動會は十
月二十一日午前八時より母校運動場に於
て開催せられた。之れより先二十日の夜
は六時から十二時頃迄三科の應援團が思
ひひの扮装を凝して街頭デモを行ひ運
動會や賣店やらの宣傳をした。運動會
は先づ三科選手應援團の入場式、學校長
の訓示にて開會された。養蠶科は壽司、
汁粉、團子等、製絲科は眞綿、石鹼、紡
織科は縫絲、人絹刺繡絲、靴下、タオル
風呂敷、富士絹等の賣店を出した。尙修
已寮では食堂を開設した。

當日の呼び物である餘興は蠶二の「人
の一生」は姫嫁から棺桶迄の行列で新趣
向と云ふ可く紡織科の「大名行列」と絲一
の「剣舞」は非常時に相應しく供頭の馬が
途中で動かなくなつたのも又一興、絲二
の「浮世様々」は徳川時代より現世迄の巷
間の人々を現はして面白し。應援團の應
援振りが又一つの興味をそゝるものであ
る。何時の頃から初まつたか「〇〇拍子」
アイン、ツイ、ドライの號令と共にリ
ーダーが踊り應援團が拍子を送る方法も
年と共に型をなして來た。自分等の學生
時代にはなかつたものである。觀衆は場

に溢れ賣店は晝迄に賣切れとなつた。か
くて夕闇せまる午後五時學校長の發聲に
て萬歳を三唱して散會した。

本年の對科競技は養蠶科斷然リードし
紡一又躍進し、毎年の例を破り點數では
蠶、絲、紡の順なりしも勝率では蠶、紡
絲の順になつた。左に對科競技の成績を
示す。

七、百米競走	1、十二秒 羽吉(蠶三) 2、北原(蠶二)
3、宮坂(絲二) 4、渡邊(絲二) 5、望月(蠶一) 6、黒岩(紡三)	
九、八百米競走	1、二分九秒四分の五 大山(蠶三) 2、西澤(蠶三) 3、諸岡(紡一) 4、柳澤(紡一) 5、土屋(絲一) 6、矢澤(紡一)
一二、圓盤投	1、二七、一九米 小松(絲一) 2、淺川(蠶三) 3、藤田(蠶三)
一八、二百米競走	1、二五秒 羽吉(蠶三) 2、北原(蠶二) 3、宮坂(絲二) 4、渡邊(絲二) 5、望月(蠶一) 6、久芳(紡一)
二四、走高跳	1、一、五五米 伊藤(蠶三) 2、青木(蠶二) 3、羽吉(蠶三)
二七、砲丸投	1、一〇、八米 淺川(蠶三) 2、小松(蠶二) 3、古平(蠶三)
三四、四百米競走	1、五八秒五分の一 大山(蠶三) 2、宮坂(絲二) 3、望月(蠶一) 4、古平(蠶三) 5、諸岡(紡一) 6、上木(絲三)
三九、走幅跳	1、五、七六米 青木(蠶三) 2、小林(絲一) 3、有間(蠶一)
四五、千五百米競走	1、四分五十三秒二分の一 西澤(蠶三) 2、大山(蠶三) 3、柳澤(紡一) 4、諸岡(紡一) 5、和田(絲一) 6、北澤(絲一)
六〇、棒高跳	1、二、七〇米 青木(蠶三) 2、上田(紡二) 3、今村(絲三)
六二、槍 投	1、三九、六二米 小松(絲一) 2、岩本(紡一) 3、北原(蠶二)
六七、三段跳	1、一一、七二米 松本(蠶選三) 2、伊藤

(蠶三) 3、有間(蠶二)
七三、長距離競走
1、四二分四一秒二 西澤(蠶三) 2、柳澤(紡一) 3、吉江(蠶一) 4、矢澤(紡一) 5、羽田(絲一) 6、鈴木(蠶一) 八九、各科八百米競走
一分四十二秒
1、蠶、北原(二) 青木(三) 望月(一) 羽吉(三)
2、絲、宮坂(二) 小林(一) 中村(三) 渡邊(二)
3、紡、黒岩(三) 久芳(一) 上田(二) 矢崎(一)

養蠶	100米競走	55.5
製絲	200米競走	11.2
紡織	400米競走	11.2
	800米競走	12.4
	1500米競走	1.3
	500米競走	1.3
	長距離競走	1.3
	八百米競走	2.2
	砲丸投	3
	圓盤投	3
	槍投	3
	走幅跳	4
	走高跳	6
	走高跳	11.5
	三段跳	19.1
	棒高跳	10.6
	總得點	63.5
等	級	1
勝	率	0.2
人	員	2
等	級	3

(寫真上は餘興大名行列、下は應援團の
〇〇拍子)
(上田市馬場町 三井寫眞館撮影)



松代商業主催の卓球大會に本校選手優
勝す 十月廿八日松代商業學校主催の縣
下卓球大會に於て本校選手は壓倒的成績
を以て優勝し優勝旗を得た。五回戦以後
の戦績を示す次の通りである。

五回戦
水野(本校) 3-0 西澤(交友)
吉池(本校) 3-1 宮澤(本校)

六回戦
水野(本校) 3-2 田(小諸)
吉池(本校) 3-1 水内(交友)

七回戦(決勝戦)
水野(本校) 3-0 吉池(本校)

秋季辯論大會 辯論主催秋季辯論大會
は十一月二日午後四時より新講堂で開催
された。演題及辯士は左の通りである。

一、開會之辭 紡二 土屋 勉
一、挨拶 部長 金子 敦授
一、人造絹絲より見たる吾が蠶絲業 蠶三 古平 義雄
一、日本精神 蠶一 望月 藤夫
一、起て有色人種 蠶二 宮城 時久
一、自由生活 蠶一 瀧澤 昌一
一、窮迫せる國內危機 蠶二 星野 智
一、農村不況對策 絲三 滿澤 佈
一、閉會之辭 絲三 武者 忠彦

蠶三伊藤幸男君(三段)は十一月三、
四日京都武徳殿に於て行はれた日本學生
聯盟劍道大會に出場して通過して七十餘名
中十六名の中に残つた。斯くの如
き晴れの場所に母校選手の出場する
事は喜ばしき限りである。

本會記事

本會日誌

十月 六日 針塚校長壽像台石受領のため林、倉澤、兩理事小縣郡和村へ出張す
十月二十日 山陽千曲會總會を岡山縣下津井町に開催せらる。倉澤理事出席す
全 日 吉川孟文氏尊父御逝去につき弔電を發し哀悼の意を表せり
十月廿六日 理事會開會第八回代議員會提出問題につき研究す
十月廿七日 龍上社勤務の松田敬三氏(絲一)長逝せらる。御遺族に弔電を發し諷諭千曲會長へ會葬方依頼す
全 日 有志弔慰金故佐藤雄次郎氏分金四十二圓、故金澤丈也氏分金三十三圓五十錢、故上原安夫氏分金五十圓夫々御遺族へ贈呈す
十月廿八日 北信千曲會總會を戸倉温泉に開催せらる。本會より多數出席せり
全 日 北陸千曲會を金澤市に開催せらる。倉澤理事出席す
十一月五日 東京印刷局庶務課勤務の井熊虎太郎氏(絲四)長逝せらる。弔電を發し御遺族に弔電を發す

第八回代議員會提出問題

- 一、千曲會員ノ活動ニ關スル件 (山形)
提出内容ノ説明ハ會ニ隔リテ詳細ナシ見込
一、死亡會員ニ贈呈スベキ弔慰金制度ニ關スル件 (熊本)
本問題ハ昨秋ノ代議員會ニ提出シ詳細ナル説明ヲ付セリ今回ハ之ヲ省ク
一、二十五周年記念事業中千曲會員ノ徽章ニ關スル件 (熊本)
昨秋ノ代議員會ニ於テ折角決議セルモノナルモ全ク無用ノモノナリト信ジ之ガ中止ヲ切望ス
一、母校關係職員支會内ニ於テ重大ナル事故生ジタル場合本會ニ代リテ支會ノ執ルベキ措置ニ關スル件 (東京)
一、千曲時報ヲ冊子(菊版)ニ改ムル件 (東京)
一、母校ニ於ケル授業科目ノ刷新ニ關スル件 (群馬)
世界經濟不況ノ刺戟ト科學ノ急進ナル進歩等ニ據リ社會ノ現状ハ實ニ甚シキ變化ヲ來シツ、アリ我ガ蠶絲業モ亦其ノ一ニシテ之ガ研鑽ハ一刻モ停滯セシムルコトハ許サス、故ニ我ガ蠶絲業ニ於テ之ガ刷新ハ必要ナル事ナリ、仍テ一般農業ト蠶絲業トノ聯關的研究、蠶絲行政ノ研究、各種纖維ノ研究、織染ノ研究、化學ノ研究及之等ノ縱橫綜合的連鎖關係ノ研究等ニ關シ一段ノ力ヲ注シ適切ナル教育ヲ施ス爲メ科目教授時間ノ刷新ヲ劃リ延テハ新科ノ創設等ヲ要望セントス
一、千曲會館建設利用ニ關スル件 (北陸)
一、千曲會支會準則中改正ノ件 (本會)
千曲會支會準則第四條第一項支會長一名ノ下ニ支會副長一名ヲ加ヘ第二項支會長ノ下ニ支會副長一名ヲ加フ本則ハ昭和九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

雜文一束 [一]

Y K 生

針塚先生壽像台石の移動式が十月六日其の石の所在地小縣郡縣村海善寺で舉行された。參會者は神官、實中校長、地元村民、吾々同窓等々、仲々の賑ひであつた。神官の司會に崇重な儀式があり終つて形ばかりの小宴が賑はれ林委員長の鄭重な挨拶があり薄暮和氣霽々裡に散會した。

茲に此の石に就いて不思議な縁起がある。いつの頃か發祥の時代は判からぬが兎に角極く最近迄此の石上に蠶神のホコラが安置され年々祭典が行はれて來た。いつぞや神祇が村社に合祀されなければならなくなつた時遷座されたが今でも其の跡は歴然と讀む事が出来る。此の石は主として實中校長山浦政氏の御尊旋に據るものであるが最初村民に此の話をされた時村の人達は此の奇縁を非常に喜んで寄附を積極的に申し出して來てくれた。此の縣村滋野村附近一帶は淺間及び三方火山による石が澤山在る場所であるが此の話を聞き傳へて石の寄附申し出でが澤山あり點景にすべき添へ石等も實に豊富に得られるから壽像を文字通り盤石の安きに置く事が出来て何より嬉しい。石は既に出發して目下運搬中である。

西寮が此度日之出町の宿舊双葉館跡に移轉した。此の移轉と同時に西寮と云ふ名前が消えて高嶽寮と更められた。此の命名は校長先生によるものと云ふ。其處で此の名の依而來る語源を伺つて見ると此の寮の實感に徴し小野湖山の次の詩から得られたと云ふことである。
青蓮一去逸才稀 離復登高龍賦詩
世界三千蹄掌握 騰程九萬可風追
人間草木未生時 天上神仙來會處
爲報四方漫遊客 攀高嶽莫談可

試みに二階に登つて見て始めて斯く命名された所以が合點出來た。東は淺間、三方、鳥帽子を貫く一連の高峯が巨人の如く眼に迫るし北は神秘的な白衣の女神四方阿山の悠々たる美姿が一瞬の中に收め得らるゝし凡そ上信國境の山嶽美を悉く網羅し得ると云ふ誠に譽勝の地位である此所を蒙崇高邁な精神を養成すべき搖籃として下界のネオンサイン等を吹き飛ばす自然兒の輩出を希つてやまない。

よく支會の總會に出掛けて聞く話である。總會の通知をし出席の有無を問ひ合はせるが其の返事できへ出さない人があると云ふ。誰だつて主持つ身の上であるから自分の自由に行かない事のあるのは當然である。だが返事の出せない理由は多し。多くは不注意で出席しないから出さないであらうが司會者から見ると其の返事が何より待ち遠しい。出席出來ない理由でも書いてあると其の理由に依つては出席したと同じ心持ちに同化する。どうか返事文は出して戴きたい。萬障差し繰つて御出席を願はれ、ば之に越した喜びはないのだが!

滿洲熊岳城池田正五郎氏よりの最近の消息によれば級友清水衛敏氏(蠶十一)は一兩年前社命により蠶界と縁切りし一時哈爾濱に駐在してゐたが、昨冬より熱河省北票炭礦に入り最近の職制異動に伴ひ以前の會計主任の位置より一躍經理課次長の椅子に昇任せられた由である。此の會社は資本金五〇〇萬圓、經理課長は滿洲人で清水氏は正に事實上經理課の實權を掌握した譯であるといふ。御本人の得意や思ふべし。洋々たる君の前途や實に吾々内地人の羨望の的ではあるまいか。不況に喘ぐ蠶絲業界立直しの爲の努力もさる事ながら、如造ひの天地に活躍出來る融通性ある人が一人でも多く出る事は母校にとつても誠に喜ばしき極みである。

叙任辭令 [母校之部]

副手兼講師 林 太郎
臨時副手 大塚 富雄
副手 小松忠一郎
網紡織科勤務ヲ免シ蠶絲化學教室勤務ヲ命ス(十月十三日)
兼講師ヲ囑託ス(十一月八日)

叙任辭令 [千曲會之部]

公立實業學校教諭 土岡 光郎
公立學校職員年功加俸令ニ依リ昭和九年九月二十五日ヨリ年功加俸年額百四拾四圓下賜(十月三日)
地方農林技師 鈴木 貞治
十級俸下賜(十月六日)
廣島縣農林技師 奥村 好一
地方農林技師ニ任ス 高等官七等ヲ以テ待遇セララル(十月十二日)
地方農林技師 奥村 好一
愛知縣農林技師ニ補ス(十月十二日)
從六位 野澤 泰治
叙正六位(十月十五日)
大分縣立玖波農學校教諭 五島眞喜太
陸軍歩兵伍長
公立實業學校教諭ニ任ス 高等官七等ヲ以テ待遇セララル(十月廿六日)
白井 要範
廣島縣農林技師ニ任ス 府中簡檢定所勤務(十月廿六日)
野田 太郎
朝鮮黃海道産業技師ニ任ス(十月廿七日)
新潟縣農林技師 三好 彌市
地方農林技師ニ任ス 高等官七等ヲ以テ待遇セララル(十月卅一日)
地方農林技師 三好 彌市
新潟縣農林技師ニ補ス(十月卅一日)

支會通信

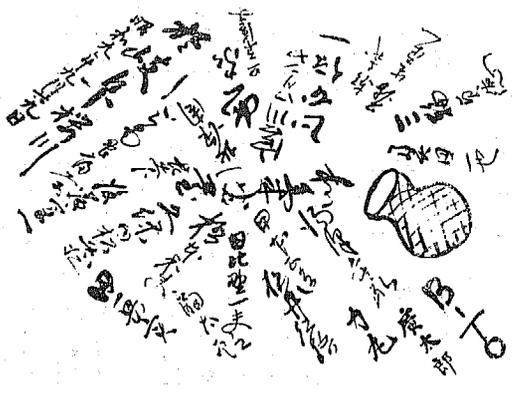
針塚校長御來岐歡迎會

岐阜高農十周年記念参列の爲め我等の校長先生の御來岐を豫期せるもの、その御日程が皆目わからなかつた。倉澤先生から上原技師宛二十九日午後五時三十分着の電報を戴いたのは九月二十八日午前...

- 上原清夫君 後藤幸一君 日地野一夫君 甲本正道君 湯澤重敬君 北澤 周一君 尾藤省三君 蒲生勇一君 宮川 繁治君 三輪貞徳君 橋本和夫君 久保田松藏君 山本傳一君 田ノ岡實君 三宅農富榮君 松井憲二君

何時もながらの先生の温情籠れる御挨拶に我等慈父に接せる如く舊情新なるものがあつた。純眞なりし上田の學窓時代に歸り痛飲又痛飲した。宴中ばにして先生を中心として醉筆を振つて寄せ書をす。和氣堂に満ち美妓も自ら進んで署名す。上原兄の臂振りダンス、大日本紡、甲本兄の珍舞、鐘紡、湯澤兄のチャール

ストン、掛斐の校長先生後藤兄の獨唱にて爆笑盡きる事なし。快談時の過るを知らず。岐阜名物藝妓一也の校長先生萬歳の聲に和して萬歳を三唱先生の御健康と校運の隆昌を祈つて散會する。翌三十日先生には高農の十周年記念祝賀會に臨まれ三十一日は岐阜縣廳御訪問知事内務部長に御面會になり上原技師の御案内にて在岐阜同窓の勤務工場片倉、鐘紡、日東、大日本紡を御視察特に出東製絲には佐藤工場長の案内にて母校井上博士の御研究になる人造羊毛工業化の實狀を御覽なされ薄暮迫る五時四十八分上原技師、佐藤工場長及丁度御來岐の永井氏(片倉本社) 尾藤氏の見送りを後に神戸へ向はれた。以上喜びの一端を同窓諸兄に申上る次第である。(松井生)



山陽支會便り

菊花香る十月二十日、備南の景勝下津井に於て支會總會を開催す。由來我が山陽支會は、創立當初より朝に、笠岡に、或は岩國に、其會合を多く瀬戸の海邊に催し來つた。これ一面地理的關係の然らしむるにも因らむも、又海の持つ大いなる魅力が不知不識の中に我等を索引した結果でもあらう。この日會する者左記八名、母校より遊

々倉澤理事の臨席を辱ふしたるは我等の最も感謝せる處であつた。廣島より小林茂雄氏(一)、支會長小川保氏(二)、支會幹事長土岡光郎氏(三)、岡山より藤原卓之氏(四)、小林輝一氏(五)、中島静太郎氏(六)、江野村一雄氏(七)、山口より一人も見へなかつたのは淋しかつた。尙此の外にも出席通知を寄せられた數氏があつたが遽かの支障のため不参せられたのは残念であつた。小林茂雄氏の如き御令妹の御結婚式に列席せられた御歸郷の途次、寸暇を割いて出席せられたるには、一同深く感激した次第である。

當日の會場金波樓は下津井港第一の旗亭、眺望亦絶佳。夕映の空美しき午後六時、支會長より開會の挨拶あり。續いて支會役員改選の件其他を議題に供し幹事長より會計報告の後、倉澤理事より母校創立二十五周年記念事業其他につき懇切なる説明あり。直ちに懇親會に移る。酒は西の灘の稱高き備中の名醸、肴は渡瀬足下の海より引上げたる許り、加ふるに遠く味野の港より聘したる美形の杯盤旋回らざるなく、我等の御機嫌斜ならむとするも豈夫れ得べけん哉。この時小手を翳して遙に望めば、倉澤來賓小川御大の頂頭シヤンデリヤに反映して燦然たり。思はずも隨喜の涙潸々として我等が頬を沾す。宴まきに酒に小川御大直輸入東京音頭の新かさ木會節節は我等の十八番、謳ふほどに踊るほどに海波もために鳴を鎮むる許り、左に下津井第一二を御紹介しやう。

- 下津井港ハヨリ 入りヨテ出ヨテヨリ マトモマキヨテ マギリヨテヨリ トコハイ トノエ ナノエ ソーレン
- 下津井女郎衆ハヨリ 鐘カ綱カヨリ 今朝モ出船ヲ マタ止メタヨリ トコハイ トノエ ナノエ

白石瀬戸カラヨリ 白帆が見ユルヨウ アレハ肥後様 九曜星ヨリ トコハイ トノエ ナノエ ソーレン 斯くて、終列車で歸る小林、江野村兩兄を驛に見送り、宿に引上げたるは、港町の夜も漸く更けむとする頃、折しも十二日の月中天に懸り得も云へぬ風情なり。明ければ二十一日、昨日に劣らぬ上天氣に歡は盡きず。午前八時宿の下より小舟二艘に分乗海上清遊にと出かける。下津井の沖合一里、六口島の邊に釣を試みること二刻餘、忽ちにして數十尾の獲物あり。銀鱗波に躍り歡呼笑聲頻に揚る。この日の成績一、二位は、宿より附添ひ來れる女軍に惜しくもしてやられ、六尺釣に疲れたる頃、島に上りて奇勝象岩を見る。造化の戯れ唯感嘆の二字に盡く。名勝天然記念物なり。時しも飛行機十數機銀翼を連ねて爆音高く西に翔ぶ。眞に壯觀時將に正午なり。この日最後の目標地、鷲羽山に向ふ舟中に於て、午前中の獲物を手料理に愉快なる盡餐を喫す。味また格別なり。

鷲羽山は瀬戸内海國立公園の一部にして下津井灣の一角を成すもの、急坂に汗を拭ひつゝ、海拔百四十米の頂上に立てば實に絶勝の名に恥ぢず、大小無數の島々は、遠く或は近く油の如き瀬戸の海にその影を投影し、往くが如く止るが如き眞帆片帆の數を知らず、四國の山々淡きと夢の如し。今後遊覽施設の完備と相俟つて聲價彌高かるべく、切に諸兄の來遊をお勧めして止まず。

斯くて興趣何時果つべしとも見へぬ裡を再び宿に引返し、再會を約して散會したるは午後三時過ぎなりき。(失言多謝) (小島生)

神奈川千曲會の十國峠ドライブ

ラデオに新聞紙上に各景勝地の紅葉を報じ鐵道省觀光局舉つてハイキング、ドライブの好季節を迎へしを宣傳するの秋吾が千曲會幹事諸氏も案を練る事數日、高木會長の發案により十月廿一日題記の如く箱根十國峠熱海のコースを巡るドライブを舉行せり。

會する者四十三名、大型バス二臺、ハイヤー一臺に分乗し午前七時頃横濱驛を出發す。東海道は松並木、垣々たるドライブウエーを馳つて久しきに渡る結果不況の重壓より今日一日を解放されたシルクマン達、和氣囂々語り合ふ様まことに同窓は宜しきものなり。小田原を経て箱根へかゝる頃より目的を同じくする他の幾組かのグループ、カップルいよゝ多きを加ふ。湯元、塔の澤、堂ヶ島邊り紅葉未だ序の口にして小湧谷を過ぎて杉生の山路幾曲り登るにつれて漸く紅葉點々と杉の山を燃す。見頃には少しく早く三、四分と云ふ可きか。

双子山の肩邊りより紺碧の瀟々湖秋陽を深く含んで滲透と湛へたるを見る。湖畔に車を止めて幹事の茶等用意しつゝある間に、一行は箱根権現に参拜し絲值高かれと祈る者多かりしとか。再び馳つて白雪輝く富士の秀峰を車窓に愛つゝ十國峠へかゝりぬ。この自動車専用道路の様を記せんに先づ踏切を設け道路使用賃を徴するなり。大型は二圓五十錢、中型は一圓五十錢、ハイヤーは八十錢なりと。右窓遙かに駿河灣を望み山裾延び行く處三島、沼津の町家を眺め十國の秋色此處に極はまるかと覺ゆ。正午峠の中途にて車を降り航空燈臺の設けある小高き山に登りて尾根に立てば東に湯河原、眞鶴の海を指し、西に大海模糊として廣きを望む。

草地に座を爲し、幹事用意の辨當を開く。...

午後一時半は下りとなり専用道路を終りてひたりに熱海へと着せり。...

やがて定刻となれば湯の町の情緒味ひ足らぬを嘆じつゝ車上人となり一路海岸線を馳りに馳りに...

凡そ慰安を目的の團體行動が楽しく愉快なればなる程そのかけの幹事の勞は大きものぞ。...

會合の喜び

序の言

颯風禍、饑飢と矢繼早の天の試練を受けた此頃亦呑み話か怪しからんなんて言はずにまあ目を移して貰ひ度い。

呑む事は單に呑む事のみを意味するにあらずして其の陰に胸襟を開いて語らふと言ふ重大性の潜んで居る事を見落してはならぬ。...

不平不満の爆發場所でもあり而して大いなる喜びの夕でもあろう。

年に一度朝鮮に於て開かれる高等職業講習會は新舊同窓の集り得るよき機會である。...

咸南道在住同窓の唯一たる北清農學校のI先生に地元面長の義務として總てを計畫して貰ふ等であつたのに名簿に見へる式で遂に其の姿に接し得ず結局『おいやろうぢやないか』と一決したのが旅鳥の九名。

日時 十月十六日 午後四時
場所 咸興隨一の稱あるキヤバレー
出席者 出 席 者 名

塚田正春氏(蠶三)慶尚南道原蠶種製造所
藤崎 鑽氏(蠶七)全羅南道農務課
三好圭一氏(蠶八)忠清南道燕岐郡...

『私全南の〇〇です』
『御手紙をいたゞいて御名前存じて居ました私慶南の〇〇です』

出揃はない美給の手簿のサービスに對しての主人公の怒筋は氣にもとめず座に侍べる美給連も化粧抜きで結構の無禮講な...

『こゝらで一枚記念寫眞を』と得意のカメラを向けられたのがT氏(うす暗い部屋だつた丈にどんな珍寫眞か怪寫眞が...

『シントメだけはよしてくれよハゲ』と言ふ鮮やかな逆襲に一座の空氣は全く以て和やか、何のわだかまりもなげりや...

此處でヤンベン(金持の意、一般に吾々は目上の偉い人を斯く呼ぶ)が一人退場。...

驚く程の健談振を發揮されるS氏。

フランス料理の美味が美給のサービスがこきざせたか知れぬが食ふは呑むは一皿だつて一滴だつて残すものかの物凄...

終の言
〇〇學校同窓會々場なんて堂々と貼出さずともそして極めてさ、やかな會合であつたにしても其の喜びたるや亦大いなるものがある。...

先輩方は現地で相當の壓迫を感じつゝ働いて居る者達の慰めの意味に於て亦一夕の會合の機會を與へると言ふ意味に於てどしどし各地へ出て同窓を訪問して戴き...

見受ける。世の中は宣傳第一だ。農學動物學博物學化學會等の學會へでも出席し得る斯界の權威者の居られる母校から斯かる各種學會へ出席される方の全く無いのは同窓生として非常に淋しく肩身の狭い感じがする。...

物學界が開かれ台北から僅に田中亮さんを迎へたのみでも吾々の意氣込が違ふのに母校から誰一人出席されず大抵母校では動物學をやつて居ないのか蠶ほどの學部門に屬するかと考へさせられて了つた次第、母校の先生方の奮起こそ吾々同窓生千五百名の念願でもある。

北陸千曲會總會
一、期 日 昭和九年十月二十八日
二、會 場 金澤市西町 金谷館
三、出席者 倉澤美徳(千曲會)
佐藤良太郎 野田恭一 高瀬毅一
(以上富山縣)
網村 貢 天田晋三郎 石原 石河
北澤延榮 高田茂重郎 西川梅次郎
黒田誠一郎 神林浩三 北原 基
沼田周造(以上石川縣)

四、協議問題並に協議の模様
一、會員の連絡統制に關する件
本問題提出の理由は從來總會の缺席者會費の未納者極めて多く隨つて會員間の連絡統制も亂れ勝ちの状態に鑑み之が矯正の方法に付協議せんとしたるものにして總會出席者には旅費を支給する等種々議論ありたるも結局會員の精神的結合が先決問題なる點より見て

二、各縣毎に連絡統制上必要なる工作を爲すことに意見一致せり
三、本會の區域に關する件
本問題は前問題と關聯し從來總會の出席者少きは區域廣きに過ぐるに非ざや若し然りとせば北陸千曲會を適宜の區域に分割するを妥當と認め本問題を提出したる次第なるも北陸三縣の區域は他に比し決して廣き方にあらず總會に出席云々は會員の心掛け一つに依るものとの説もあり結局現狀維持に決定せり

三、代議員會提出問題に關する件

三、代議員會提出問題に關する件

千曲會館は母校二十五周年記念事業の一として...

千曲會館の建設利用に關する件

- 四、會則變更の件
五、役員並に代議員選任に關する件



北信千曲會總會

當支會は毎年十月下旬に總會を開くのが例になつてゐる...

だ。定刻までに多數の會員が參集した。流石に全國一の大世帯ではあり折柄の秋晴れに恵まれ、湯治気分にも好チヤンス...

二、會計報告
金崎幹事より會計報告があつた。昨年の繰越金十四圓三十七錢...

三、代議員の改選
支會長より左記六名の詮衡委員を委託した。

- 勝又藤夫 野口新太郎 和田 晋
竹内善吾 中島角太郎 深澤 潔

詮衡の結果左記五名が代議員に當選した事を委員長勝又氏より報告された。

四、協 議
各支會より代議員會に提出する問題につき浦生理事長より説明があつて愈々之から協議に移つた。

五、懇親會
當支會の開會は何時も地元の方がやるのが例になつて居るので地元村長といふ立場で小林勳氏より開會の挨拶があつた。

金貳拾五圓也
花岡作彌(蠶一)
坂田榮雄(蠶二)父母 仙藏(絲四)

廿五周年記念事業

釀出金納入者第六回報告(現十月卅一日)

- 金貳拾五圓也
花岡作彌(蠶一)
坂田榮雄(蠶二)父母 仙藏(絲四)
弓田 弘(蠶五)尾藤 省三(蠶十)
小林茂雄(絲一)
金拾五圓也
小泉清明(蠶三) 岡部 彌平(絲三)
金拾圓也
朴 塘(蠶一) 林 漢龍(蠶一)
湯川秀夫(蠶一) 清水達太郎(蠶一)
森 干城(蠶一) 佐藤良太郎(蠶二)
北澤 茂(蠶二) 立岩 笑保(蠶三)
長瀬深見(蠶五) 日比野一夫(蠶五)
土岡光郎(蠶七) 齋藤 風一(蠶八)
青木幸雄(蠶七) 山本 卯一(蠶八)
宮坂 收(蠶八)池内 眞吾(蠶九)
濱村一彦(蠶九)平尾 孝平(蠶九)
枇杷木龍雄(蠶九)
松田敬三(絲一) 坂卷 文彦(絲二)
神保善久(絲三) 今井 衷(絲四)
石井謙三(絲七) 笠原 重龜(絲七)
鷹野誠一(絲七) 湯淺 文雄(絲七)
山田良人(絲七)山本金之助(絲七)
須江辨三郎(絲七)
茨木こう(準會員)
金五圓也
宇多田泰雄(蠶六)福富 繁(蠶七)
森本爲之助(蠶七)勅使河原保(蠶八)
三好圭一(蠶八) 田口富五郎(蠶九)
仲内 靜(蠶九) 宮下 京三(蠶九)
原 茂(蠶十) 加々井精喜(蠶十)
山岸 武(蠶十) 中島角太郎(蠶十)
氏家忠次(蠶十) 佐村 和夫(蠶十)
中村岩人(蠶十) 山本友之丞(蠶十)
小林貫一(蠶十) 阿部茂一郎(蠶十)
今井和人(蠶十) 阿部 稔(蠶十)
瀧口 昇(蠶十) 佐藤 馨(蠶十)
金 炳龍(蠶十) 森 亭平(蠶十)
千村敏三(蠶十) 尾崎 利雄(蠶十)
尾崎宗敬(蠶十) 中村 武男(蠶十)
若林 榮(蠶十) 加藤 省三(蠶十)
町野 巖(蠶十) 渡邊 正男(蠶十)
吉田太郎(蠶十) 村山 農義(蠶十)
町田 博(蠶十) 塚本 優(蠶十)
倉澤恒夫(蠶十) 齋藤 利雄(蠶十)
竹内五之助(絲三)的場 小六(絲六)

釀出金申込者第六回報告(現十月卅一日)

- 高橋安雄(絲七) 古郡 友一(絲七)
小山 清(絲七) 神戶 敏夫(絲七)
相澤伸司(絲七) 御子榮義之(絲七)
波邊康平(絲七) 上田 岩男(絲七)
是石春男(絲七) 磯田 益美(絲七)
齋藤 監(絲七) 磯部 英一(絲七)
神崎碩夫(絲七) 永島 覺(絲七)
根津 健(絲七) 黒木 藤雄(絲七)
後明武雄(絲七) 池田 爲雄(絲七)
太田三郎(絲七) 松野 輝彦(絲七)
中會根誠一(絲七) 西村 武男(絲七)
吉松千秋(絲七) 加藤 明(絲七)
大塚富雄(絲七) 山越さと(準會員)
瀧澤もと(準會員) 牧野 久(絲七)
栗山 とり(絲七) 中村ふみ(絲七)
堀内 波(絲七) 市川乙女(絲七)
長谷川美穂(絲七) 田中てる子(絲七)
上平 ひろ(絲七) 佐藤 かつ(絲七)
山崎 ゆり(絲七) 山崎 政江(絲七)
合計金額八百六拾五圓也
累計金額四千四百四圓也
釀出金申込者第六回報告(現十月卅一日)
八口(一名金額四拾圓也)
齋藤 菊雄(蠶六)
六口(一名金額拾圓也)
鶴田 定平(蠶一)
五口(三名十五圓七拾五圓也)
花岡 作彌(蠶一) 森 干城(蠶一)
小島 五郎(蠶二)
四口(八名卅二圓金額百六十圓也)
猪坂 直一(蠶六) 坂田 正贊(蠶八)
四方 定雄(蠶九) 佐藤重太郎(蠶九)
尾藤 省三(蠶十) 萩原 幸風(蠶十)
關口 三郎(絲七) 土屋茂一郎(絲九)
三口(六名十八圓金額九拾圓也)
小泉 清明(蠶十) 内川 勇(蠶十三)
中島角太郎(蠶十四) 湯藤正壽(蠶十五)
笠原 重龜(絲十二) 萩原行雄(絲二十)
二口(六名十二圓金額六拾圓也)
西原 淳一(蠶十七) 湯淺文雄(絲十七)
山田 保土(絲十八) 泰 彰(絲二十)
宮下文四郎(絲二十) 松崎 武雄(絲十)
一口(二名二圓金額拾圓也)
清水 重雄(絲十) 松野輝彦(絲廿一)
市川少子(準會員) 島田王子(準會員)
中村 文(絲) 上平ひろ(絲)
合計人員 三十一名
合計口數 九十七口
合計金額 四百八拾五圓也

會費領收

昭和九年通會費納入者

(○印は蠶絲學雜誌代共)

- 吉野 健吉(蠶四) 天田音三郎(蠶五)
○尾見 祐八(蠶五) 櫻井 吉利(蠶六)
○梶田 廣貞(蠶七) ○中田 太郎(蠶七)
○福富 繁(蠶八) 清水 清(蠶九)
○伊藤 喜代(蠶十) 稻生 得三(蠶十)
○池田正五郎(蠶十) ○平石 兵衛(蠶十)
○阿部 和(蠶十) ○中曾根長男(蠶十)
○竹内 孝三(蠶十) ○阿部 丈夫(蠶十)
○今井 和人(蠶十) ○出穂 稔(蠶十)
○小林 辰夫(蠶十) ○北條 正文(蠶十)
○尾崎 宗歡(蠶十) 市村志真(蠶十)
○今井 武四(蠶十) ○白川 孝昌(蠶十)
○石原滿州夫(蠶十) ○船越 重勝(蠶十)
○的場 小六(蠶十) 甲本 正道(蠶十)
○三浦 重雄(蠶十) 小宮山太助(蠶十)
○三好 彌市(蠶十) ○奥村 好一(蠶十)
○笠原 重龜(蠶十) ○福島鋼次郎(蠶十)
○金野 巖保(蠶十) 森西 康充(蠶十)
○則信 忠夫(蠶十) 野尻 白二(蠶十)
○荻原 國雄(蠶十) ○三谷 勝(蠶十)
○宮野 保夫(蠶十) ○磯部 英一(蠶十)
○松井 憲二(蠶十) 西尾 重郎(蠶十)
○梅村 義一(蠶十) ○小川 伊祐(蠶十)
○下村忠一郎(蠶十) ○吉川 知則(蠶十)
○小澤 正一(蠶十) 本多 懋(蠶十)
○西山 省(蠶十) ○野野 恒(蠶十)
○三宅農常(蠶十) 池田 爲雄(蠶十)
○岩本 賢次(蠶十) ○征矢 克郎(蠶十)
○飯島 貞雄(蠶十) 村島 徹(蠶十)
○鳥倉惣次郎(蠶十) 加藤 明(蠶十)
○木曾 信雄(蠶十) 長谷川任三(蠶十)
終身會費完納者
小林 茂雄(蠶一)
入會金完納者
池田 爲雄(蠶十)

故三谷徹氏記念

資金寄附者芳名

- 一金拾圓也 高橋伊勢次郎 下田 穰
一金五圓也 鹽見 喜六 三谷 勝
一金參圓也
鶴田 定平 鈴木 章文 山岸 松次
松岡 民藏 加納 隆
鬼塚 捨造 赤間新太郎 土屋 泰
奥村 秀夫 井上 武雄 秦 一二郎

大友 喜平 高須 兵司 土屋茂一郎
鹿島條三郎 谷田部七五郎
一金壹圓也
小澤 丘 川田トヨネ 福本峯三郎
野村 のぶ 菊池 浪 金野 巖保
尾藤 省三 松崎 市野 今井 又藏
先月分迄金壹千參百拾四圓也
本月分金七拾六圓也
累計金壹千參百九拾圓也

計報

御逝去御通知

本會々員 鈴木貞治氏(蠶九)
十月一日御逝去せらる。享年卅四歳。謹んで哀悼の意を表す。御略歴及御逝去の前後は金崎眞英氏及勝又藤夫氏の文に盡せる故略す。御遺族は次の通りである。

御逝去御通知

本會々員 松田敬三氏(蠶一)
十月二十四日御逝去せらる。享年四十四歳。謹んで哀悼の意を表す。御略歴及御逝去の前後は三輪輔氏の文に詳しき故略す。御遺族は左の通りである。

- 妻 松田 長子(卅七歳)
長男 代治 郎氏(十五歳)
長女 守 人氏(十三歳)
次女 實 子氏(八歳)
次女 範 子氏(三歳)



影近氏三敬田松故

御逝去御通知

本會々員 井熊虎太郎氏(蠶四)
十一月二日御逝去せらる。享年四十四歳。謹んで哀悼の意を表す。同氏は母校卒業後東京印刷局に勤務せられ今日に及んだのであるが御勤務先が蠶絲業と縁が遠い

爲めか殆んど音信不通で今回突如御逝去の報に接したが其の前後に付き知るに由がない。御遺族は左の通りである。

弔慰金募集

本會々員故鈴木 貞治氏(蠶九)
故松田 敬三氏(蠶一)
左記三氏に對し弔慰金を募集致します。鈴木氏は十二月末日迄に取纏め、井熊氏は一月末日迄に取纏め、御遺族へ贈呈致したいと思ひます。から夫れに間に合ふ様振替口座東京第四三三三番へ夫々同氏弔慰金の旨御記入の上御拂込下さい。
昭和九年十一月十五日
上田蠶絲專門學校千曲會

故佐藤雄次郎氏弔慰金第三回(完結)

- 一金壹圓也 蒲生 俊興 宮城 博
右合計金貳圓也
故鈴木貞治氏弔慰金第一回
一金貳圓也 大塚 重藏
四方 定雄 万石安太郎 原田 種繼
清水 清 岡部 彌平 古川 俊元
西山 市三 佐藤 彰二 佐藤 愛之
蒲生 俊興 金崎 眞英 田口富五郎
中島 文雄
右合計金拾五圓也
故松田敬三氏弔慰金第一回
一金壹圓也 蒲生 俊興
右合計金壹圓也

鈴木貞治君を憶ふ

十月一日畏友鈴木貞治君逝去せらる。誠に哀悼に堪へざる次第である。頭腦明晰で頑健なる体軀を殊の他誇りとして居られた同君ではあつたが、昨年乾繭作業中誤つて頭部を強打されたのが原因で運動神経を冒され本春は殆んど回復されずが本夏亦再發遂に斃られたのである。人間如何なる處に災難があるか判らぬも

のだとシミ／＼感ぜらる。君は病床に臥して最後まで回復の意氣に燃へて居られ、我々も又アノ頑健さとアノ若さを持つ君の事なれば大丈夫と回復の日の近きを確信して居つたので、計報に接しても容易に之を信ずる事が出来なかつた。でも事實は事實として我々の希望は裏切られ君は可惜猶春秋に當り未だとうら若き御令聞殊には頑強な愛兒三人を残して悲しくも三十有五年の生涯を閉ぢられたのである。君の心情を察し御家族の御悲歎の状を思ふ時涙なくして居られない。大正十一年春學校を出られた君は直ちに群馬縣新町に在る鐘紡工場へ入社、主として製絲原料購買の方面を擔當し東京西走大いにその手腕を振ひ問もなく社員に昇進偉い鼻息だつた。其後鐘紡の姉妹會社として昭和産業會社が創設せらるゝや特に抜かれて鹿兒島縣の鹿屋支店へ赴き努め其の基礎の成立後、新設の宮城縣の日向支店へ轉じ事實上の支店長として大いに業務に盡せられたが、蠶業に對する智識皆無の支店長と意見を異にしたので遂に昭和五年秋惜まれ乍ら退社せられたのである。當時既に世は不況の折柄とて就職難ではあつたが、幸ひ昭和六年春宮城縣農林技手に就任出来同縣農務課勤務で登米郡乾繭組合駐在となられたのである。仕事の性質が往年鐘紡在社當時と同じ様だつたので、よき伯樂を得た駿馬の如く業績は著しく學が本春は技師に昇進され其の前途は實に洋々たるものであつた。今や蠶界の非常時に際し君を失ひたるは同縣のため又友人としても同窓としても誠に惜みても餘りある處である。君は運動としては何一つやらなかつたが、常に大聲で歌を唱すると云ふ妙な健康法をやつて居られた。君のドッシリした体格は度量の大きさを充分表現し、滋味ある服装や調度の品々は君の落付きたる性格を遺憾なく現して居た。随分毒舌家ではあつたが寸毫も悪氣なく相當ユ

鈴木貞治君と 學校時代の思出

鈴木貞治君は養蠶九回の偉才であつた事を何人も認めるであらう。君は山形の出身で我々と同クラスであつた。私は丁度入學の時君と寄宿舎(修己寮)の七號室に入つたのである。今思つても當時からお互に九(苦)の字に因縁があつたのかも知れない。
その當時七號室は大勢で古郡友一さん(中途退學)大島武治さん(絲九現依田武治さん)。柏倉豊吉さん、鈴木貞治さんと私で都合七人が押し込められてゐたので今から思へば随分無理な話ではないかあの狭い室(自修室と云ふ居間と寢室限り)で七人だもの。併し何事も簡單な生活の時代だからそれでも通れたのであらう。
私は今あの時代のことを考へると随分惨な気分になるのである。と云ふのは中川さんが中途で退學されてしまふ。渡邊隆平さんは支那邊りで活動され歸朝してから神戸の生絲検査所へ入られたが三十才餘りて珍しい胃腸などになつてなくなられ、鈴木君は此の度長逝し、柏倉君は病氣されて折角九大農學部を卒へた身を療養して居られる。(尤も大變宜しい相で此の分なら近い中に元の身體になられるであらうが)残るのは古郡さんと依田さんと私だからである。當時あの室に特別に傳染する様な病氣があつた譯ではない。逝くなられた雨君は何れも傳染病ではないが餘りにも惨めな茨の途へ出てしまつた。當時の室長古郡さんは今は朝鮮で御元氣でせうが何と思はれるでせうか?
當時の學校生活ではクラス會が一番本

性を出す場所であつた。春蠶が終つて確か海野町の近藤でクラス会をやつて飲み上げたものだ。鈴木君は生れが東北地方であり體格もよく酒の方は強かつたものだ。元來豪放の性質であつたし頭腦もよく身體もよかつたので、學問の方もドン／＼進んだが酒の方も進んだもので何時かの宴會の時（確か上田公園の富貴には真冬であつたが）歸路に羽織を脱ぎ棄て、しまつた。翌朝羽織がないと探したものだ。又當時は運動會はクラスレレーを最後にやつたもので我々のクラスは人数も多かつたが元氣もあつて必ず一着と相場は決つてゐたが鈴木君は必ず應援團長として活躍したものでなくてはならない人物だつた。

自分が鈴木君に敬服してゐる點は君は豪放であつたが又細い點にも氣付いたし身装りの如きもキチンとしてゐたことである。こんな事は恐らく學校でも知らずに済んだであらうが確か真中の蠶室で養蠶實習中に何號室かの蠶が燃へ始めてゐたのを鈴木君は見付けて外へ放り出して消して知らぬ顔をしてゐたので誰も知らずに居た事がある。身装りの點では君は學生時代に鼻下に髭を蓄へ紋付羽織を着て堂々たる紳士として構へてゐたりした。

思ひ出は盡きないが限りもないから之れ位にしておくが鈴木君はあの膽力と腦力と體力を以て學校を出ると直ぐ鐘紡へ入社して目覚ましい活動をしたものだ。昭和産業會社の設立などには技術的に相當骨折つたものであるがこれ等は私が述べる迄もない。

我々は蠶九期生として異色のある人物を持つを誇りとしてゐたが今その一人を失つてしまつたのである。私は十月二日母校倉澤教授から電話で『君のクラスの鈴木君が昨日逝くなつた』と知らされて同期生として我々が大きい期待して居つた仲間の一を失つた事を心から淋しく思つた。そして倉澤教授にその心境を語り仲間の一人が生前に御世話になつたことを御禮を申述べた。それから金崎兄と二人で同期の者へ通知した。

松田君のこと

松田敬三君は上伊那郡箕輪村の名望家田中家の出、松本中學を経て上田蠶絲專門學校製絲科第一回の卒業である。在學中は松中出身者一志君高須君など、神川方面へ下宿し上田の町の空氣を離れて極めて着實に勉學された。圓満の性格の持主でどちらかといへばこつ／＼勉強された方で學生としての生活は地味の方であつた。

卒業されて直ちに尾澤組へ入られた。君の長兄と尾澤虎雄さんと親しい間柄であつたからとの事である。尾澤組で随分苦勞され熱心に研究されて現業に精通される様になつた。その間支那人經營の製絲場へ轉ぜられ支那の奥地に行かれたが色々の事情で再び尾澤組へ歸られた。大正五年伊那郡村の舊家松田家を嗣がれた。松田家の祖先は例の有名な阪本天山と交友あり先年故人の著『もしほぐさ』は上伊那郡教育會で編纂出版された。天山の長女は僕の祖母の祖母にあたり今時を異にして松田君と交友があつたも何かの因縁であらう。

尾澤組が片倉會社と併合されて君も片倉會社に勤められ伊那の武井製絲所、大宮の研究所等で手腕を振られた。家庭の事情で郷里の近くに居られる必要から片倉會社を辭められ諏訪の組合製絲龍上社の技師長として入られた。昭和六年の春である。程かな性格と熱心に仕事をやらなければ氣が済まないといふ強い責任感から社長始め各組合長の信望極めて厚く且つ多年の經驗を積まれた關係上現業に精しく現業長の景仰するところであつた。僕は前の諏訪町組合長牛山氏と懇意の間柄で折々組合を訪れたことがあつた。今から三年ばかり前或る日牛山さんの云はれるに『松田さんがどうも手が痺れて困るといふので友人關博士を紹介してやつ

た。一寸中氣の氣味の様です』と。其後松田君に逢つて様子を聞いて見たら『現業長會がありその後で懇親會、終つて風呂に入つた時身体の自由を失ひ其後も血脈高きどうも變つて困る心配だ』と云はれ『お互に氣を付けなくてはならない年齢になつた』など話した。其後非常に氣を付けられ酒など絶対にやめられて居つたので仕事の上で差支へる様な事もなく熱心に勤められ餘暇には小縣の鹿敷湯などに行かれ専ら療養に努められた。

故上原安夫氏 御遺族より禮狀

秋冷の候と相成りました。皆々様には愈々御健勝の御事と存じます。安夫生前中は格別なる御配慮に預り恐縮に存じて居りました處不幸にしてその御恩の一端をお報ひ出来ず永眠いたしました事は返す／＼も残念に存じます。尙此度は一方ならぬ皆々様の御心配に預り過大なる御香料を頂戴致しまして其の御厚志は家内一同感激いたして居ります。こゝに謹んでお禮申し上げます。紙上にて失禮の程おゆるし下さいませ。皆々様の御健康を御祈り致します。(本會宛)

上原 啓三 全 保子 全 浩 外親戚一同

會 員 動 靜

故上原安夫氏 御遺族より禮狀

秋冷の候と相成りました。皆々様には愈々御健勝の御事と存じます。安夫生前中は格別なる御配慮に預り恐縮に存じて居りました處不幸にしてその御恩の一端をお報ひ出来ず永眠いたしました事は返す／＼も残念に存じます。尙此度は一方ならぬ皆々様の御心配に預り過大なる御香料を頂戴致しまして其の御厚志は家内一同感激いたして居ります。こゝに謹んでお禮申し上げます。紙上にて失禮の程おゆるし下さいませ。皆々様の御健康を御祈り致します。(本會宛)

(十一月五日現在)

- 宮内 智(現職) (住)上田市愛宕町(名簿脱漏)
小澤 丘(舊職) (勤)東京市上野恩賜公園内、第二東京市立中學校(住)東京市中野區宮園通五ノ三三興武館(名簿訂正)
高島 秀男(蠶二) (勤)千葉市 千葉縣内務部蠶絲課(住)千葉市築川新宿六四(名簿訂正)
福田鐵之助(蠶三) (勤)栃木縣那須郡那須野町、栃木縣蠶業試驗場那須支場(名簿訂正)
青木針三郎(蠶三) (勤)栃木縣那須郡那須野町、栃木縣蠶業試驗場那須支場(名簿訂正)
宇多田泰雄(蠶六) (勤)東京府大島元村、東京府蠶業取締所大島支所(名簿訂正)
可兒 良夫(蠶七) (勤)東京市京橋區銀座西七丁目六、藤田鐵業株式會社東京出張所(住)東京市世田谷區世田谷二丁目二〇三六電話世田谷三五二七番(名簿訂正)
柏倉 豊吉(蠶九) (住)山形縣南村上郡上ノ山町松山(名簿訂正)
金子 幸一(蠶一三) (勤)長野縣須坂町、片倉製絲紡績株式會社須坂中製絲所(名簿訂正)
清家 重明(蠶一五) (住)愛媛縣西宇和郡二本生村植生(轉住)
山本 誠(蠶一七) (勤)山口市、山口縣農務課(轉勤)
齋藤 軍二(蠶一九) (勤)福岡縣筑紫郡二日市町、昭榮製絲株式會社二日市工場(轉勤)
宮城 蕉(蠶一九) (勤)沖繩縣東郡大宜味村駐在縣蠶業技手(轉勤)
武田 一好(蠶一九) (勤)埼玉縣熊谷町、大里郡乾藪販賣利用組合蠶種部、電話二五六番(轉勤)
都築 清治(蠶二〇) (勤)兵庫縣津名郡中川原村、昭和産業株式會社淡路原蠶種製造所(轉勤)
有賀 彰夫(蠶二〇) (勤)兵庫縣津名郡中川原村、昭和産業株式會社淡路原蠶種製造所(轉勤)
駒井 慶治(蠶二〇) (勤)埼玉縣本庄町、昭榮製絲株式會社本庄工場(轉勤)
原 治夫(蠶二〇) (勤)群馬縣新田郡尾島町、群馬縣蠶業取締所尾島支所(轉勤)
池田 俊郎(蠶二二) (勤)沼津市靜岡縣蠶業取締所沼津支所(轉勤)
西澤 良一(蠶二二) (勤)長野縣北佐久郡岩村田町、長野縣蠶業取締所岩村田支所(轉勤)
秋山 俊雄(蠶二二) (勤)靜岡縣見付町、靜岡縣蠶業取締所見付支所(轉勤)
稻石英太郎(蠶二二) (勤)ナシ(住)豊橋市花田町西宿前一(轉住)

- 森田 三郎(四) (住)東京市大森區馬込町東三丁目六三〇(名簿訂正)
- 吉田 榮治(六) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 佐藤 種雄(六) (勤)長野市中區本町二丁目番地、江商株式會社(名簿訂正)
- 真村 好一(八) (勤)長野市花田町妙立寺、愛知縣藤原町、愛知縣藤原町(勤)
- 中津信一郎(二) (勤)長野市花田町妙立寺、愛知縣藤原町、愛知縣藤原町(勤)
- 白井 要範(二) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 武藤 寛一(一五) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 島原友之助(一五) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 長谷川洋治(一六) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 小池 貞章(一七) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 高橋 滿(一七) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 佐藤 東平(一七) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 越 英信(一八) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 中島 熊保(一九) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 本間 茂鏡(一九) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 六川 忠行(二〇) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 竹内 正司(二〇) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 岩本 賢次(二二) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 坂入 長治(二二) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 中曾根靜一(二二) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 新村 五郎(二二) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 高橋 利光(二二) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 林 太郎(三) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 根岸 只吉(四) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 今吉 築朗(五) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 笠原 五郎(六) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 橋本 和夫(六) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 北原 基(八) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 山下 昂(八) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 四宮 太郎(九) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 佐久間幸一(九) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 西村 盈保(一〇) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 大塚 富雄(一〇) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 山田 華男(一三) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 清水はるい(教) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 原 文子(教) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)
- 岡澤 重(教) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場(勤)

宇都宮高農同窓會、各務同窓會、鹿兒島高農同窓會、京都高工會、又信會、名古屋工業會、

四、五十音順によるもの

米澤工業會、桐生高工同窓會、金澤工業會、學士會、

會員名簿の配列形式は府縣別がよいが、回數順がよいが、五十音順乃至ABC順がよいが、大に研究を要する事である。勿論右三様に配列したものを一冊の名簿に收めその各々に現住所を記したものが一番理想的であるがそれは頁數も相當多くなるし豫算が非常に膨脹する欠點がある。會員名簿の容積が成るべく小さい事は携帶に便である特點がある。

府縣別に配列したもの、特點は各地に旅行する場合に其の地方に居る會員を知ること非常に都合がよい。又本會と支會とを連絡する上にも何か都合がよいと思ふ。例へば此の間の様に京阪地方に大暴風雨が早し速其の地方に居る、諸君に見舞状を書く場合などには府縣別は直ぐに役立つ、若し本會から印刷物などを發送する場合に各府縣別毎に取纏めて郵便局に差出す場合は大に手数が省かれるに違ひない。

次に「アイウエオ順(五十音順)」と「いろは順」と「ABC順」とが普通用ひられる方法であるが「ABC順」は「KMNST」が特に多くなる嫌ひがある、

即ち次の表を見て分る。

A(あ) B(は) C(こ) D(と) E(え) F(ふ) G(が) H(は) I(い) J(い) K(か) L(き) M(ま) N(な) O(お) P(た) Q(て) R(り) S(さ) T(た) U(う) W(わ) Y(や) Z(よ)

同窓會名	發行年月	配列形式	記載事項	備考
同窓會名	發行年月	配列形式	記載事項	備考
鹿兒島高農同窓會	昭和八年	ABC順	卒業年次、勤務先、住所	方別、振替用紙、四二五、九二〇
東京高農同窓會	昭和八年	府縣順	勤務先、住所、本籍官公	五〇七、三三九
鳥取高農同窓會	昭和八年	回數順	勤務先、現住所	三〇四、五七六
三重高農同窓會	昭和九年	回數順	本籍、勤務先及現住所	三三三、四二二
密雲高農同窓會	昭和九年	回數順	原籍、卒業年次、官職、勤務先、住所	四二二、六三三
宇都宮高農同窓會	昭和九年	ABC順	本籍、卒業年次、官職、勤務先、住所	四二二、六三三
岐阜高農同窓會	昭和八年	ABC順	本籍、卒業年次、官職、勤務先、住所	四二二、六三三
宮崎高農同窓會	昭和八年	回數順	本籍、卒業年次、官職、勤務先、住所	四二二、六三三
高松高農同窓會	昭和八年	ABC順	本籍、卒業年次、官職、勤務先、住所	四二二、六三三
京都高農同窓會	昭和六年	ABC順	本籍、卒業年次、官職、勤務先、住所	四二二、六三三
名古屋高農同窓會	昭和八年	ABC順	本籍、卒業年次、官職、勤務先、住所	四二二、六三三
名古屋高農同窓會	昭和八年	ABC順	本籍、卒業年次、官職、勤務先、住所	四二二、六三三
米澤高農同窓會	昭和八年	五十音順	原籍、卒業年次、勤務先、住所	四二二、六三三
澤工業會	昭和八年	五十音順	原籍、卒業年次、勤務先、住所	四二二、六三三
桐生高工同窓會	昭和八年	五十音順	原籍、卒業年次、勤務先、住所	四二二、六三三
澤工業會	昭和八年	五十音順	原籍、卒業年次、勤務先、住所	四二二、六三三
金澤高工會	昭和六年	五十音順	原籍、卒業年次、勤務先、住所	四二二、六三三
千曲會	昭和九年	回數順	本籍、現住所	四二二、六三三
學士會	昭和九年	五十音順	本籍、學位、學科、卒業年次、職名、住所	四二二、六三三
東高師者友會	昭和八年	府縣順	職名、住所、本籍	四二二、六三三

回數順によるものは差別的で氣持が悪いと云ふ議論があるが其れも尤もな話だ。お互に成るべく差別的の事はしたくない。而してこの配列法もまた大に特點があると思ふ。例へば同期の卒業生又はその近くの卒業生等に年賀状や死亡通知など書く場合には特に便利である。

勤務先と住所とはつきり區別して書かざるは筆者も賛成であるが記載する場合に勤務先を主とするか、自宅を主とするかは尙ほ研究の餘地がある。例へば就職の交渉や年賀状などは自宅の方へ發送する方が都合がよいかも知れぬが自宅は非常に變り易い欠點がある。若し移轉後に知らずに書面を發送した場合には「移轉先不明」の附箋が貼付されて發信者に返される事が多くない。然るに勤務先であれば若し轉任の場合に大抵回送されるし親切な官廳や會社などであれば別に先行して通知して呉れる。

右の様に「得」失はあるが勤務先と自宅とは會員名簿には是非併記して欲しい。會員名簿はなるべく詳細に記載すれば記載する程益々都合がよいと思ふ。職名等

會員名簿に就いて(併せてお願ひ)

此頃、千曲會々員名簿の編輯法に就いて二、三有益な意見があつた爲に先づ最近、千曲會に寄贈になつた各學校同窓會の會員名簿につき調査をした。調査をしたのは主として農業及び工業の學校の會員名簿で今、之を配列形式に依つて分類

も加へたいと思つて居る(職名を書き事は差別的となるから職名は書かぬ方がよいと云ふ意見もある)。而し千曲會の會員名簿も目下郵税二錢と四錢との境に彷徨して居る。若し勤務先と自宅とを併記し職名まで書くとするとの會員名簿の頁数が三分一増加し紙代、印刷代の増加の外に郵税が倍額となる。結局豫算が問題となつて来る。二十五周年祝賀後で無いと斯かる豫算の増加は計上が出来ない。

會員名簿の附録として來年三月卒業見込者氏名が載つて居るのが二三あつた。今年度の千曲會々員名簿も其の例になつた。會員名簿には大概會則が載つて居るのを例とする。其他よい思付だと思つたのに振替用紙や住所移動通知用の私製端書が繰返になつて居るのもあつた。千曲會でも今年度は端書を挿入して置いた。之は來年度の會員名簿の基礎並に千曲會

編輯室より

○一今月は編輯子が本紙をやらせられてから始めての原稿の殺到振りであつた。矢張り燈大親しむの秋、それに總會記事が加つたのも原因の一つ。原稿は幾らでもある。寫眞も幾らでもある。無いのは○○。で會計係へ御百度を踏んで漸く十四頁發行と云ふ事にしたが尙原稿の繰越が六編もあると云ふ状態だ。

○一先月號の母校ニエースの織維工業學會創立の欄に發起人中濱香三氏を脱漏せる事を御詫び申上げる。

○一木の葉はすつかり散つて柿の實許り此處彼處に赤々と熟して居るのが目立つ。菅平にも初雪が報せられた。躍進するスキーシーズンも間も無く来る。

○一千枚氏が御自分の御計畫に御手の少なかつたのを時報の讀者が少ないせいにして居られる。近頃以て迷惑な話だ。なんて云ふては見るものすばから本當はそうかも知れないと云ふ様な弱氣が出て来る。然し考へて見れば著者丈が唯一の讀者でせうねえ。

カードの原本となるのであるから必ず報告して頂きたい。其れから移動のあつた場合には至急御通知を願ひたい。

調査をした名簿の内、巻頭に校勘が遺入つて居るのは鹿兒島高農の名簿であつたが電報略語のついて居るのは千曲會獨特である。因に本年度の會員名簿には新に電報略語が少々附加へられてあるから左様御承知を乞ふ。

以上は僅か十數例の會員名簿についての話だが尙引續き其他の學校の會員名簿についても研究し其の結果は改めて報告する積りである。吾等の會員名簿も大方の御指導御鞭撻によつて益々よいものにした。名簿中脱漏、誤記、誤植等に御氣付の向は早速御一報を願ふ。

昭和九年九月現在の會員名簿は十月十二日に發送したから、皆御落手の事と思ふ。(須用)

式煮繭機
式多條機
特許T M式ストーカー
特許T M式コールセンター
製絲機械器具一般
設計請負

高崎市赤坂町七六番地
坂路商店
電話 一〇九番
振替口座東京三三六九番

御來田のお土産は
みずい 柿 上フルーツ
杏ゼリー チョコレート
香水 黒羊羹
信濃そば 果物類 雜貨類
上田市松尾町
電話二六〇二五四

上飯島商店

御會食に 御宴會に
レストラン
香青軒
明明な洋室 落付いた
和室(數室)
上田市袋町 電話13番

千曲會指定旅館
上村ホテル
上田市海野町
電話三二七番

旭工業商會
正會員 飯島貞雄
東京市芝區田村町三ノ七
電話芝(四三)一七二八

拜啓時下秋冷之候益々御多祥之段奉賀候陳者小生等上田蠶絲專門學校在職中は一方ならぬ御懇情を賜り奉深謝候今般都合に依り同校を退職任り左記會社に勤務致す事と相成候間今後倍舊の御指導御鞭撻賜度奉懇願候先は不取敢以書中御禮旁々御挨拶迄如斯御座候
昭和九年十月十六日
川崎市扇町
昭利肥料株式會社川崎工場入組部
山田 塚 太 富 郎
林 雄 郎

京染 於傳覽會一等賞金牌受領

染賃が今迄の半額以下

御一報次第(御年齢記入)京染新柄見本と營業案内を御送りします それに依つて御好を御覽下さい

有名な京染が御家庭から京都染元直接に注文が出来る様な便利になりました 染元直接なるが故に染賃が半額以下で出来ます

また御存知ない御方は是非一度御試し下さい

徳岡の京染はナゼ安いのか 御客様 京染問屋徳岡 直接だからです

外の京染はナゼ高いのか 御客様 京染問屋徳岡 注文取 地方京染店 京染問屋だからです

白生地類は御値で差上げますから地方より二三圓安く御手に入ります

御注文先より御禮状毎日續々到着

各府縣産業組合御締約染元
京都市下京區高辻通大宮西入

京染問屋 徳岡總本店
振替 大阪 六三六二八
福岡 一五七四六
電話 下 二九九一六

京染問屋 徳岡總本店
白生地類 西陣織物 京染問屋 徳岡總本店

小店員募集 申込次第委細通知す